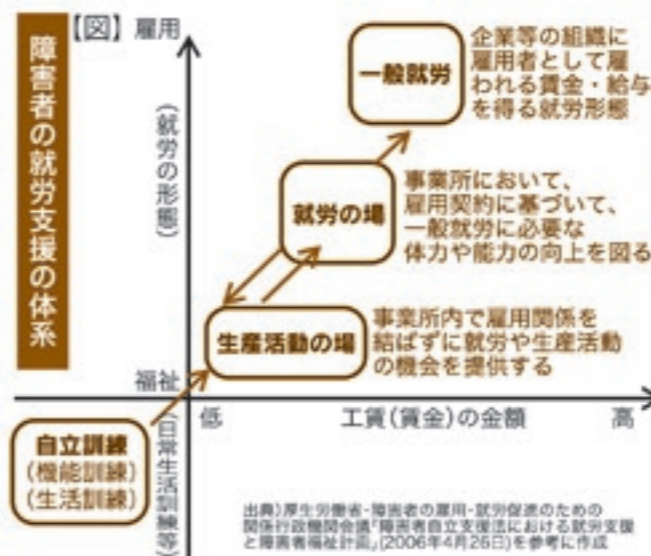


将来の夢に向かっ

私たちの第一歩はここから

近年、経済情勢の悪化に伴い、雇用情勢も厳しい状況ですが、雇用面から障害者の社会参加が促進されるよう労働局や各関係機関が連携して左記の「図」のような体系で、就労を応援しています。

そこで「生産活動の場」として、知的障害者福祉施設「足羽ワークセンター」（社会福祉法人足羽福祉会）が設けた「県議会食堂あすわ」で活動を始めた方々に、本格的な就労に向かっ「夢」などをインタビューしました。



「ここで働くきっかけは？」

ままさん 私は将来調理師の資格をとりたかったから。

嵐さん もうちょっとレベルの上の仕事がしてみたいから。

堂下さん(支援者) どこか一般の会社へお勤めして自立がしたいんですよね。

嵐さん はい、福祉施設外での仕事を経験してみたいんです。

はるちゃん 自由が欲しかった。うまくいえないけど、よい機会だと思ってね。

まみさん 私もはるちゃんと同じで外で自由に仕事がしたいと思っています。

「仕事をしたいことや楽しいことは？」

嵐さん 私は、お客さんがたくさん来て、「おいしい」と言ってもらえたことが嬉しかったんです。楽しかったことは、お客さんの笑顔を見て接客することです。

まみさん(笑)嵐さんと一緒に、お客さんにとってもおいしかったなって言ってもらえること。みんなとお仕事したりね。(笑)

まみさん 初め食堂に来た時は、楽しいというよりは緊張してすこっかっかと思っ。なかなか仕事が覚えられなかったです。今は、みんなに茶碗を洗う時に助けてもらって嬉しいと思ってるんです。



「自分が成長したこととは？」

堂下さん 以前、足羽ワークセンターの厨房で働いていた時は、一般のお客さんと会話をすることは無かったですね。オーダーをとる場合、伝票にテーブルナンバーと品名と数量と金額、係の名前を書くのですが、それがしゃかりでできるようになりました。

ままさんは定食のオーダーが入ると、私が伝える前にメニューに応じた開業の組み合わせができるようになりました。ここでは仕事の優先順位が問われます。福祉施設内の厨房との大きな違いです。一般のお客さんと接することで自然と周りの人を意識しながらその場に合わせた行動ができるようになってきました。

まみさん うん。(笑)

嵐さん 自分では気づきにくいかもしれないけれど。(笑)でもやっていることはそういうことなんです。無意識のうちには仕事のやり方を覚えていっているんですよ。



「はるちゃん 始めて仕事場に来た時は、なんか不安だなーと思ったの(笑)やっついでいけるかなーってオドオドしながらやりました。そのうち、今日はお客さんの入りが多いかなあ、少ないかなあ?と感じたり、お客さんの笑顔がみられるとホッとして、それが楽しいなと思うようになりました。(笑)」

嵐さん はるちゃん、ここにきて、何ができるように来たの?

はるちゃん んー。(困)県議会と県庁内の配達はしています。

堂下さん 配達とか自分でできるようになったという実感はありますか?

はるちゃん そういわれると配達ができるようになったんだなって感じます。

「働くうえで大切にしていることは？」

嵐さん 笑顔かなあ?

まみさん ……大切にしていることは、やっぱり仲間と一緒に仕事をすることです。厨房だから、やっぱりお客さんにおかしくお話しして言ってもらえることが一番大切だと思っっています。

はるちゃん 人と人とのふれあいかな?それが気遣っていろいろか、心がけているというか。(笑)

まみさん 仕事場でのチームワークかなあ?上司とか、仲間とか、どんな時でも。

「今後、食堂をどんな風に今していきたい？」

嵐さん お客さんを増やして(笑)いつもテーブルが埋まるような食堂。

まみさん やっつかり、たくさんのお客さんに来てもらって、喜んでもらいたいって感じやねー。

はるちゃん いろんな人からの意見を聞いて、取り入れていくことだと思っっています。

まみさん 夢で終わらせたくない。本当ですね。夢が実現するのいいですね。



堂下さん (支援者)



「将来の夢は何？」

嵐さん 今の食堂とはかけ離れたんだけど、私の将来の夢は、介護職につきたいんです。ものすごく頑張らないと難しいけど。(笑)

司会 介護職ですか!

嵐さん 一番は介護職なんですけど、二番は、こういう接客

県議会食堂 あすわ
議事堂中2階
TEL 20-0632
〒25-3-17-1 足羽 20-0632
営業時間 11:30~13:30
定休日 土・日・祝日

支援者の堂下さんに聞きました!!

この取り組みを始めた動機や必要性は?

私たちが取り組むことになった背景には、障害がある方の働ける場所を確保し、就職につなげていくことにあります。議会食堂「あすわ」のような施設外就労は、一般就労する前段階にあり、社会とのかかわりの中で働く人が力を磨いていく場となっています。また、県から障害者施設費アップ推進事業として、専門家である中小企業診断士等の支援を受けながら、議会食堂「あすわ」のよさをだしていきたいと思っています。それが、お客さんの確保につながり、働く人の工賃アップにもつながって行きますからね。働く人の着実な一歩を大切にしながら、働く場所の継続と拡大に努めています。

食堂で働く障害者を支援する上で大切にしていることは?

- 人生の楽しみを体感! 何が本当の楽しみなのかを働くことで体感してもらえよう、そしてみんなの夢が叶うように応援をしています。
- チームワークを大切に! 職場が楽しくないと仕事は続かない。楽しい職場をつくるためには、仲間へのあいさつや言葉かけが日頃の人間関係で大切になるので、それを食堂運営の中から身につけてもらえるよう支援しています。

運営する上での課題と、今後、この活動をどう発展させていくか?

議会食堂「あすわ」は、あくまで一般就労につながる第一歩を担う場です。そのため、議会食堂での仕事を果敢と、また新しい仲間がここで知識と経験を積み上げることになります。この食堂で、働く仲間が変わっても食堂の質を保っていくことが課題となってくると思っっています。

障害者の就労を応援する主な機関

ハローワーク福井 専門援助部門 TEL 23-0350(直) / FAX 23-0309
職業相談、障害者試行雇用事業の実施など

(社)福井県雇用支援協会 TEL 24-2392 / FAX 24-2394
障害者雇用アドバイザーを配置し、啓発や事業所訪問などによるフォローアップなど

福井障害者職業センター TEL 25-3685 / FAX 25-3694
職業相談や職場にジョブコーチ(職場適応援助者)を派遣して本人・企業へのサポートなど

福井障害者就業・生活支援センター「ふっとわーく」 TEL & FAX 98-3747(直)
就業支援とそれに伴う生活リズムや作業を持続する力など働くリズムを育むための支援など